

葉山災害ボランティアネットワーク

HSVΝ

2021 年度総会 議案書

◇総会議案

第1号議案 2020 年度活動報告及び

同収支会計報告並びに会計監査報告

第2号議案 2021 年度活動計画（案）

第3号議案 2021 年度予算（案）

第4号議案 役員改選

以上

【第1号議案】2020年度活動報告及び同収支報告、並びに会計監査報告

2020年度活動報告

昨年の総会で提案した2020年度事業計画の中で、新型コロナウイルス感染症の流行が、『新たな災害』といった状態になるのではないかと懸念を呈しました。以来一年、拡大する感染で、緊急事態宣言が発令され、各面で行動の自粛や催しの中止、延期が求められ、病気流行による社会混乱は、まさに自然災害に劣らない社会不安をもたらすまでになりました。

当会においても、多くの事業が活動できない状態に追い込まれ、まことに残念ながら未消化状態のままで年度を終えることになりました。

このところ葉山町及び近郊では、一昨年襲来した大型台風のような災害はありませんが、もし、コロナ禍の状況で自然災害が併発したらと考えますと、2020年度は、今後に大きな教訓を与えた年度として意識していかなければならないと強く感じたところでありました。

以下、活動の基本重点事項に照らし、活動の状況を報告します。

<2020年度事業計画 基本重点事項>

1. 会員のスキルアップを図り、ボランティアコーディネーター育成に努める。
2. 災害VCの仕組みづくりを推進する。
3. 関係機関や地域の団体との連携を強化し、認識の共有を図る。
4. 広報活動を通じて新会員の獲得に努める。
5. 被災地支援活動を継続して行う。
6. 防災教育に関する取り組み「葉山防災ラボ」の活動を継承・発展させる。

<2020年度の活動内容>

1. 「会員のスキルアップ、ボランティアコーディネーター育成」について

- ① 「災害ボランティアセンター(以下VCという)設置運営訓練」は、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化(以下コロナ禍という)に配慮し中止した。
- ② 県主催「ビッグレスキューかながわ」は、コロナ禍に配慮し延期となった。
- ③ 「葉山まちあるき」は、コロナ禍に配慮し中止した。
- ④ 語り場(12月19日元町会館)。
 - ・「災害を生き延びるパート②マイ防災マップを作ろう!」のテーマで開催し、町民、会員ら12名が参加した。
- ⑤ ICT学習・活用ワークショップ(巻末<表>参照)。
 - ・かながわ災害情報連絡会「オンラインICT講座」等各種訓練に会員らが参加した。

2. 「災害VCの仕組みづくり推進」について

- ① 災害VC設置運営マニュアル・様式の改訂。
 - ・マニュアル本体の改訂作業は終了した。
 - ・「葉山災害ボランティアセンター感染症対策ガイドライン(以下「感染症対策ガイドライン」という)との係わり部分は引続きの検討課題として残った。
- ② 「災害VC立上までの行動指針」は、今後、「感染症対策ガイドライン」とのすり合わせを行う。
- ③ ポータルサイト(<https://chiiki-bosai.jp/hp/hsvc>)の運営と充実。
 - ・防災科研の要請によりサイト移行し、5月にリニューアル見直しを行った。リニューアル後、アクセス数3,000回以上に達した。
 - ・コロナ感染症対応の避難所、災害VCのガイド、各種情報をサイトトップに特別掲示した。

3. 「関係機関や地域の団体との連携強化、認識の共有」について

- ① 「災害VC連携会議」(10月28日)。
 - ・葉山町、社協、ボラ団体で、「コロナ禍における災害VCの運営について」を検討した。
- ② 「三浦半島地区地域災害ボランティアネットワーク交流会(葉山・逗子・横須賀・金沢区4地域交流会)」(2021年2月6日:3名、2月27日:6名参加)。
 - ・隣接する地域災害ボラの活動情報を共有したが、コロナ禍の影響で各地とも低調だった。
 - ・三浦市災ボラ立ち上げに交流会で協力することになった。
- ③ KSVN(神奈川災害ボランティアネットワーク)理事に当会から吉田見岳副代表を派遣し、情報共有に努めた。
- ④ 町内災害ボランティア関係団体との交流は、コロナ禍に配慮し中止した。

4. 「広報活動」について

- ① 浜銀バザー、まちづくり展などで広報活動は、コロナ禍に配慮し中止した。
- ② 会員相互の親睦を図るため懇親会の開催は、コロナ禍に配慮し中止した。
- ③ 「防災の日」にちなみ、湘南ビーチFMでHSVNの活動を紹介した(9月1日)。

5. 「被災地支援活動」について

- ① 陸前高田市立図書館支援古本の回収と収益の寄付。
 - ・コロナ禍による各種イベント中止で古本回収活動はできなかったが、保管図書による収益金1,962円を寄付した。
 - ・なお、陸前高田市立図書館の再建が完了したので、古本回収による『図書館ゆめプロジェクト』事業は、ここで一区切り終了とする。
- ② 「復興応援屋台」被災地製品の販売・募金活動は、コロナ禍に配慮し中止した。
- ③ 「100万人の線香花火ナイト」追悼行事。
 - ・森戸海岸での追悼行事は、コロナ禍に配慮し中止し、個人各家庭で実施した(8月11日)。
- ④ 「緊急支援活動準備金の積立と被災地へ復旧支援ボランティアの派遣」。
 - ・被災地からのボランティアの派遣要請は無かったが、支援準備金の積み立ては行った

6. 「防災教育の取組活動」について

- ① 「葉山防災ラボ」の地域密着型活動計画は、コロナ禍に配慮し、中止または延期した。
- ② 「てんでんこ逗葉」〈自分で判断して行動〉計画は、コロナ禍に配慮し、中止または延期した。
- ③ 「KIDS防災PICNIC(てんでんこ逗葉・金沢SVN共催)」(11月23日・横浜市民防災センター)を実施した。
 - ・葉山からは、子ども30名、大人6名参加した。
 - ・災害・防災の学習と、センターから京急戸部駅まで子供たちだけでたどり着く帰宅困難を体験した。楽しく防災意識が身についた1日となった。
- ④ 「防災デイキャンプ(主催:てんでんこ逗葉)」はコロナ禍のため延期し、オンラインによる防災イベントに変更した(2021年2月23日)。
 - ・葉山からは、子ども11名、保護者数名が参加した。

7. 新型コロナウイルス対応活動 について

- ・葉山社協「災害VCの設置・運営について/全社協ガイドライン/7月発行」のリモート講習会(10月23日)。
- ・鎌倉保健所から「コロナ禍における災害ボランティア活動上の注意点」聞き取り調査(11月9日)。
- ・HSVN主催「コロナ禍での災害VC運営」オンライン勉強会(12月5日)。社協、近隣団体含め12名参加した。

- ・「コロナ禍における災害VC運営」対応検討委員会ZOOMを利用したオンライン会議で 5 回開催した。
- ・KSVNその他が主催するコロナ対応オンライン講習会等に会員有志が受講した。
- ・VC設置運営のための「感染症対策ガイドライン」の作成を開始し、新年度より運用の予定。

8. 総務・その他の活動

- ① 2020 年度 HSVN 総会は、コロナ禍のため、書面決議にて開催された(6 月)。
 - ・2019(令和元)年度決算、2020 年度活動計画と予算が提案通り承認された。
- ② 月例運営委員会は、コロナ禍での会議運営方式(web 会議)を試みた。
 - ・コロナ禍のため、7 月までは対面会議を取りやめてメールで連絡を取り合い、8 月からはZOOMを利用して、オンライン参加者と社協会議室参加者を結ぶ二元中継で会議を運営した。
 - ・二元中継委員会開催 6 回、オンラインのみ開催 1 回、中止 1 回。
- ③ 情報発信の強化を目指すPRチームが発足し、新たにインスタグラムでの情報発信を開始、その他FBページでの投稿も活発化させている。

フェイスブック <https://www.facebook.com/hsvn77/>

インスタグラム <https://www.instagram.com/hsvn77/>

9. 組織状況報告

- ◇2020 年度末 会員数 47 名 (うち正会員 37 名、賛助会員 10 名)
- なお、新たなPRチームの情報発信を見た方が会員に加わった。

その他の活動記録を最終頁に掲載しましたので、そちらもご覧ください。

2020 年度会計監査報告

2021 年 5 月 2 日	
会計監査報告書	
葉山災害ボランティアネットワーク 代表 柿本秀二 殿	
会計監査	松元美恵 
会計監査	菅田健太郎 
葉山災害ボランティアネットワークの 2020 年度会計監査を下記の通り実施しましたので報告します。	
記	
監査実施日	2021 年 5 月 2 日
監査書類	2020 年度収支会計報告書および関係書類
監査結果	上記書類について、厳正な監査を行った結果、いずれも正確かつ適正に取り扱われていることを認めます。
以上	

2020 年度収支報告

一般会計の部

2020年4月1日～2021年3月31日

科 目	2020年度 予算(¥)	2020年度 実績(¥)	摘 要
I 収入の部			
1)会費	48,000	42,000	会員42名×1000円
2)助成金	100,000	100,000	年末たすけあい運動助成金
3)参加費	15,000	0	
4)寄付金	20,000	5,000	寄付金
5)繰越金	41,525	41,525	前年度より繰越し
6)預金利息	2	2	横浜銀行
収入合計	224,527	188,527	
II 支出の部			
1 事業費			
1)訓練研修 準備・実施費	20,000	0	
2)訓練研修 通信・印刷費	15,000	645	学習会コピー代
3)訓練研修 講師・会場費			
4)訓練研修 参加・移動費	15,000	0	
5)連携プロジェクト関係費	15,000	0	
6)災害支援活動派遣関係費	15,000	0	
7)防災教育活動関係費	25,000	3,451	てんでんこ逗葉活動補助
8)広報PR活動関係費	10,000	0	
9)地域活動関係費	5,000	6,970	線香花火など
事業費計	120,000	11,066	
2 管理費			
1)加盟会費	13,000	13,000	KSVN、社協協賛金
2)保険料	2,000	0	
管理費計	15,000	13,000	
3 事務費			
1)会議費	5,000	15,610	ZOOM通信料ほか
2)交通費	15,000	0	
3)通信費	10,000	9,030	総会用往復葉書ほか
4)消耗品費	10,000	999	HDMIケーブル
5)機材購入費	10,000	87,627	非常用電源ほか
6)雑費	10,000	3,394	文具ほか
事務費計	60,000	116,660	
4 緊急支援活動準備金積立て	20,000	20,000	
繰越し抜き支出合計	215,000	160,726	
5 繰越金	9,527	27,801	
支出合計	224,527	188,527	

緊急支援活動準備金積立ての部

I 収入の部			
1)一般会計より積立て	200,000	20,000	
2)繰越金	20,000	200,000	
収入合計	200,000	220,000	
II 支出の部			
1)緊急支援活動費	220,000	0	
2)繰越金	0	220,000	
支出合計	220,000	220,000	

【第2号議案】2021年度活動計画（案）

昨年から猛威をふるっているコロナウィルス感染症ですが、ここに至っても終息の兆しも見えないまま、第四波が変異株を伴ってさらに大きな波となりつつある現状です。このような事態の中で今年度の活動計画を提案する事ははなはだ心許ない気もするのですが、災害の発生はコロナの蔓延とは関わりなく「明日起きてもおかしくない」事には変わりありません。

実際に昨年7月には熊本県において記録的集中豪雨による水害・土砂災害が発生し、65名の方が亡くなられ、現在も多くの被災者が避難生活を送っておられます。そうした中で立ち上がった災害ボランティアセンターは被災者対応に加え、感染症予防対策をとっての運営を行わざるを得ませんでした。

このような昨今の気候変動もたらす集中豪雨や、台風などの災害はここ葉山でもいつ発生してもおかしくはありませんし、首都圏、相模湾、東南海トラフを震源とする地震の発生とそれに伴う津波なども、明日起きてもおかしくはないのは周知の事です。

コロナが蔓延していても災害は起きるという事であるならば、熊本県の経験にも学びつつ感染拡大防止に留意した備えを準備する事が我々の「やるべき事」で、こういう事態だからこそ「やるべき事」の中から「できる事」をしっかりと着実に増やしていく事だと思うのです。とは言え、一方では多人数が集まるとの訓練や会議を行うことはできない事も実情です。そうした観点を踏まえて、以下に今年度の活動計画を提案いたします。

基本重点事項は、大筋は堅持していきますが、具体的活動内容はコロナの蔓延状況に柔軟に対応して柔軟に対処していきたいと思います。

<基本重点事項>

1. 会員のスキルアップを図り、ボランティアコーディネーター育成に努める。
2. 災害VCの仕組み造りを推進する。
3. 関係機関や地域の団体との連携を強化し、認識の共有を図る。
4. 広報活動を通じて新会員の獲得に努める。
5. 被災地支援活動を継続して行う。
6. 防災教育に関する取り組みを継承・発展させる。

<具体的活動内容>

1. 会員のスキルアップを図り、ボランティアコーディネーター育成に努める。

- ① 前年度に引き続き「感染症対策ガイドライン」の作成を進める。
- ② ガイドラインに沿った運営方法を会全体で周知・共有する。
- ③ ガイドラインに沿った運営訓練を状況に合わせて行う。
- ④ 町歩き・語り場はコロナの蔓延状況を判断し、感染予防対策をとった上で実施のタイミングを計る。
- ⑤ ICT 学習・活用ワークショップの開催を行う。

2. 災害VCの仕組み造りを推進する

- ① 「感染症対策ガイドライン」に沿ったマニュアル・様式の見直しを行う。
- ② 「ボランティアセンター立上げまでの行動指針」の見直しと再周知を行う。
- ③ ポータルサイトの運営と充実に努める。
- ④ 感染症対策のため普及が進むリモート会議などの環境整備を行う。

3. 関係機関や地域の団体との連携を強化し、認識の共有を図る

- ① 「災害VC連携会議」に参加し社協・行政・町内の他団体との連携を図る。
- ② 「三浦半島地区地域災害ボランティアネットワーク交流会」(葉山・逗子・横須賀・金沢区)に参加し広域連携に向けて関係を強化する。
- ③ KSVN(神奈川災害ボランティアネットワーク)に理事を派遣し、情報共有、各種訓練に参加する。
- ④ 町内災害ボランティア関係団体との関係強化を図る。
- ⑤ 「ビッグレスキューかながわ(令和3年度神奈川県・葉山町合同総合防災訓練)」が開催された折は、積極的に参加し協力する。

4. 広報活動を通じて新会員の獲得に努める

- ① 昨年立ち上がったPR委員会によるSNS上の情報発信を継続・強化する
- ② 町内で行われるイベントなどに参加し機会を捉えて広報活動を行う。
- ③ 会員相互の親睦を図る。リアル・リモートなど状況に応じて判断する。
- ④ 「社協便り」や「町広報紙」などに HSVN の活動(訓練告知など)掲載を依頼する。

5. 被災地支援活動を継続して行う

- ① 大きな災害が発生した時には、緊急支援活動を行えるように準備する。
- ② 「緊急支援活動準備金」の積み立てを続ける。

6. 防災教育の取組みを発展させる

「てんでんこ逗葉」の防災キャンプ、防災ピクニックに対する支援を継続して行う

以上

HSVN の SNS



<https://www.facebook.com/hsvn77/>



<https://www.instagram.com/hsvn77/>



HSVN77

【第3号議案】2021年度葉山災害ボランティアネットワーク予算

一般会計の部

2021年4月1日～2022年3月31日

科 目	2021年度 予算(¥)	2020年度 予算(¥)	摘 要
I 収入の部			
1)会費	47,000	48,000	47名×1000円
2)助成金	100,000	100,000	年末たすけあい運動助成金
3)参加費	0	15,000	
4)寄付金	5,000	20,000	
5)繰越金	27,801	41,525	前年度より繰越し
6)預金利息	0	2	
収入合計	179,801	224,527	
II 支出の部			
1 事業費			
1)訓練研修 準備・実施費	20,000	20,000	訓練・研修に係る諸費用
2)訓練研修 通信・印刷費	8,000	15,000	葉書、切手、郵送代など
3)訓練研修 講師・会場費	0	0	
4)訓練研修 参加・移動費	0	15,000	
5)連携プロジェクト関係費	5,000	15,000	広域連携などに係る費用
6)災害支援活動派遣関係費	10,000	15,000	現地調査など関連費用
7)防災教育活動関係費	15,000	25,000	葉山防災ラボ関連費用
8)広報PR活動関係費	2,000	10,000	広報活動に係る費用
9)地域活動関係費	8,000	5,000	町内連携に係る費用
事業費計	68,000	120,000	
2 管理費			
1)加盟会費	13,000	13,000	KSVN、社協
2)保険料	2,000	2,000	イベント保険
管理費計	15,000	15,000	
3 事務費			
1)会議費	25,000	5,000	総務関連会議費(zoom利用料金含む)
2)交通費	2,000	15,000	総務関連交通費
3)通信費	8,000	10,000	総務関連通信費
4)消耗品費	3,000	10,000	総務関連消耗費
5)機材購入費	20,000	10,000	総務関連機材費
6)雑費	3,000	10,000	総務関連雑費費
事務費計	61,000	60,000	
4 緊急支援活動準備金積立て	20,000	20,000	
繰越し抜き支出合計	164,000	215,000	
5 繰越金	15,801	9,527	
支出合計	179,801	224,527	

緊急支援活動準備金積立ての部

I 収入の部			
1)一般会計より積立て	20,000	200,000	2020年度一般会計より繰入
2)繰越金	220,000	20,000	2021年度一般会計より繰入
収入合計	240,000	200,000	
II 支出の部			
1)緊急支援活動費	220,000	220,000	被災地支援活動
2)繰越金	20,000	0	
支出合計	240,000	220,000	

以上

【第4号議案】役員改選

2021年度役員を下記のとおりとする。

就任

役職	氏名	
代表	柿本 秀二	留任
副代表	矢嶋 恵子	留任
副代表	西山 利廣	留任
副代表	吉田 見岳	留任
会計	小峰 梅男	留任
幹事	岡村 恭子	留任
幹事	窪田 美樹	留任
幹事	千葉 綾	留任
幹事	中村 和雄	留任
幹事	増田 佳恵	留任
幹事	松平 克己	留任
幹事	関 志歩	新任
会計監査	松元 美恵	留任
会計監査	吉田 健太郎	留任
顧問	丸 恭輔	留任

退任

幹事	佐藤 文彦
----	-------

以上

昨年度末に社会福祉協議会の災害ボランティアセンター担当であった千田さんが異動により担当を外れ、新任で中野さんと、森島さんが災害ボランティアセンターの担当となりました。千田さんの5年間の担務に感謝を述べるとともに、中野さん、森島さんによる変わらぬ葉山災害ボランティアネットワークへのご支援をお願いするものです。

＜表＞ ICT学習・活用ワークショップ 等各種訓練参加状況

訓練名	訓練日	当会からの参加人数
かながわ災害情報連絡会「オンラインICT講座」	4月4日	1名
	5月2日	スタッフとして1名
	6月6日	スタッフとして1名
	7月4日	1名
	8月1日	スタッフとして1名
	8月22日	スタッフとして1名
	9月5日	スタッフとして1名
	9月19日	スタッフとして1名
	10月10日	スタッフとして1名
	10月31日	2名、他にスタッフとして1名
	11月21日	2名
	12月12日	2名
	1月23日	スタッフとして1名
	2月20日	1名、他にスタッフとして1名
	3月13日	3名、他にスタッフとして1名
	3月20日	スタッフとして1名
横浜市南区SVN「コロナ禍対応ICT活用講座」横浜市南区社協	9月10日	スタッフとして1名
横浜市鶴見区平安町内会「コロナ禍対応ICT活用講座」鶴見区平安町内会館	10月25日	スタッフとして1名
横浜市鶴見区SVN「コロナ禍対応ICT活用講座」横浜市鶴見区社協	10月28日	スタッフとして1名
横浜市磯子区SVN「コロナ禍対応ICT活用講座」オンライン	11月10日	スタッフとして1名
横浜市青葉区SVN「コロナ禍対応ICT活用講座」横浜市青葉区社協	12月20日	スタッフとして1名
KSVN「Zoom体験セミナー」 於県サポートセンター及びオンライン	12月8日	スタッフとして1名
	12月13日	スタッフとして1名
	12月15日	スタッフとして1名
KSVN「新型コロナウイルス感染予防と避難所運営」オンライン	12月18日	1名
KSVN「Webフォームによる情報伝達講座」於県サポートセンター及びオンライン	12月19日	スタッフとして1名
県、県社協、県共同募金会、災害復興くらし応援・みんなのネットワーク オンライン勉強会「横須賀三浦地域における災害に備えた三者連携」	2月3日	4名、葉山町3名、葉山社協 1名
かながわ県民活動サポートセンター、共同募金会、訓練実行委「広域 連携かながわ図上訓練」オンライン	2月11日	1名
KSVN「災害時支援センター支援室情報伝達訓練」オンライン	3月10～ 16日	HSVNとして参加、集計など スタッフとしても1名
KSVN、かながわ災害ボラバスチーム「東日本大震災10年オンライン 講演・震災を乗り越えて」	3月27日	3名
オンラインによるKSVN、神奈川県生協連合会「長野県災害時支援ネ ットワークとの交流フォーラム」	3月28日	1名